

Event イベント

10月31日 土 TOYAMAキラリ2階ロビー

第一部
13:00 -

オープニングトーク
「やさしい世界-量子の恋」と「希望」
伊東順二、本木克英、西村まさ彦、大友啓史

第二部
14:35 -

特別トーク(2部構成)

・特別トーク 大友啓史監督、池田航さんに、それぞれお話しいただきます。



大友啓史

[映画監督/演出家]

1966年岩手県盛岡市生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。90年NHK入局、秋田放送局を経て2年間L.A.に留学、ハリウッドにて脚本や映像演出を学ぶ。帰国後、『ちゅらさん』シリーズ、『ハゲタカ』『白洲次郎』、大河ドラマ『龍馬伝』等の演出、映画『ハゲタカ』(09年)監督を務める。2011年NHK退局、株式会社大友啓史事務所を設立。同年、ワーナー・ブラザースと日本人初の複数本監督契約を締結する。『るろうに剣心』シリーズ5部作が大ヒットを記録。昨年公開された『宝島』は、日本アカデミー賞優秀作品賞含む8部門受賞。他の作品に『3月のライオン』2部作(17)、『影裏』(20)、『THE LEGEND&BUTTERFLY』(23)、NETFLIX映画『10DANCE』(25)など。



池田 航

[俳優/タレント]

1995年5月1日生まれ。2019年4月期TokyoMX2『鎧勇騎月兎』で主演デビュー。同年TBS『グランメゾン東京』にレギュラー出演。代表作にドラマNHK連続テレビ小説『ちむどんどん』ドラマ10『大奥』、初主演映画『四日間〜Four days,Tokio』。調理師免許や食育インストラクターなどの資格を持ち、料理男子としても人気を集め、TikTokフォロワー120万越え。2023年から3年間日本テレビZIPの「旅するエプロン〜30秒のちそう〜」で全47都道府県を三周して料理を披露した。2027年には主演映画『ライス・イズ・ライフ』の公開を控えている。



松本 愛

[モデル/タレント]

ファッションブランドモデルとして活動の傍ら、テレビリポーターとしても活躍中。BBTのレポーター・ケーブルテレビ富山『キュースタ!』のレギュラー出演。広告モデルとしてTVCMなど多数。演劇にも力を注ぎ、2024上演の「ニューマドンナ」みゆ役をはじめ県内上演の演劇に役者として出演。表現活動の場を拡大中。

After Event

アフターイベント

11月28日 土 10:00 - 12:00

場所 | J MAX THEATER とやま

「富山映像大賞2026」受賞作品等の上映

主催：富山映像大賞運営コンソーシアム、富山市
富山映像大賞総合プロデューサー：伊東順二

協賛：銀座ダイヤモンドシライシ富山本店、正栄グループ、NIX JAPAN 株式会社、株式会社アトム
協力：J MAX THEATER とやま、富山県映像関連事業社協会、ラックプロ株式会社
会場構成：富山大学芸術文化学部横山天心研究室+学生有志



SHOEI
group

NIX
NIX JAPAN



お問い合わせ 富山映像大賞運営事務局
〒930-8510 富山市新桜町7番38号 富山市まちづくり推進課内
TEL.076-443-2054(平日9時から17時)

[公式webサイト お問い合わせフォーム]
<https://www.thinktoyama.jp>

TOYAMA MEDIA ART
INTERNATIONAL TRIENNALE



Toyama Media Art International Triennale 2026

受賞作品発表 & 授賞式

日時 | 2026年10月31日 土 13:00 -

場所 | 富山ガラス美術館 2階ロビー
(富山市西町5-1 TOYAMAキラリ)

入場無料

公募
テーマ

プロフェッショナルコース

市民向けコース

やさしい世界
—量子の恋—

希望

主催：富山映像大賞運営コンソーシアム、富山市
総合プロデューサー：伊東順二

協賛：銀座ダイヤモンドシライシ富山本店、正栄グループ、NIX JAPAN 株式会社、株式会社アトム
協力：J MAX THEATER とやま、富山県映像関連事業社協会、ラックプロ株式会社
会場構成：富山大学芸術文化学部横山天心研究室+学生有志



公式Webサイト
<https://www.thinktoyama.jp>

富山映像大賞

富山映像大賞 授賞式

Toyama Media Art
International Triennale
2026

2026年10月31日 土

YouTubeの「富山映像大賞」チャンネルにて
ライブ配信を行います！
ご自宅からの視聴も可能です。



Timetable

13:00 – オープニング、記念トークショー
13:28 – ノミネート作品上映
14:35 – 最終審査、特別トーク
15:20 – 授賞式
16:00 – クロージング

最終審査員 ※五十音順、敬称略



©Lorenzo Barassi x 伊いTOMO

伊東 順二

〔富山映像大賞総合プロデューサー〕

1953年長崎生まれ。早稲田大学仏文科大学院修士課程修了。帰国後、美術評論家、プロデューサー、プロジェクト・プランナーとして、アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995年ベニスビエンナーレ日本館コミッショナー。1997年パリ日本文化会館オープニング展コミッショナー。2000年～2001年「文化庁メディア芸術祭企画展」プロデューサー。2004年～2007年3月長崎県美術館館長。2004年～2013年3月富山大学教授。2008年～2012年高岡市「金屋町楽市」実行委員長。2013年～2023年東京芸術大学特任教授。元富山市ガラス美術館名誉館長。2002年仏政府より「芸術文化勲章(シュヴァリエ)」受章。著書「現在美術」、「アート・ランナー9.79」、NHKテキスト「100分de名著 アンドレ・ブルトンシュルレアリスム宣言」。

内田 まほろ

〔キュレーター/展示プロデューサー/MoN Takanawa: The Museum of Narratives アーティスティック・ディレクター〕

2002年より日本科学未来館にて、「時間旅行展」「チームラボ展」や、シンボル展示「ジオ・コスモス」、ビョークやジェフ・ミルズなどのコラボなど、科学技術と文化をつなぐプロジェクトを多数企画。日本のロボット、情報科学、ものづくりの紹介にも注力。文化庁在外研修員としてMoMA勤務した他、Barbican Centre (London)、パリ文化会館等にゲストキュレーターとして参画。大阪・関西万博では、石黒浩プロデュース「いのちの未来」パビリオンの企画統括ディレクターを務めた。グッドデザイン賞審査委員。2020年よりMoN Takanawa: The Museum of Narratives開館準備室長を務め、2025年より現職。

大 堀 敦

〔桜美林大学ビジネスマネジメント学群 教授/映画監督〕

1963年、千葉県育ち。一橋大学 経済学部 卒業。日本放送協会(NHK)ディレクター、プロデューサーとして主にドキュメンタリー、教養、福祉、歴史などの番組を制作する。監督第1作の文化記録映画「春画と日本人」は2018年度キネマ旬報ベストテン文化映画第7位。「スズさん 昭和の家事と家族の物語」(2022)、「わたしたちの国立西洋美術館」(2023)、今年10月10日から劇場公開が始まる「東京上空300メートル」が第4作となる。

島 敦彦

〔国立国際美術館館長〕

1956年富山県生まれ、1980年早稲田大学理工学部金属工学科卒業。1980年4月より建設準備室を経て富山県立近代美術館に勤務した後、1992年1月より国立国際美術館(大阪)に移り、2013年10月より同館副館長兼学芸課長となる。2015年4月より愛知県美術館館長、2017年4月より2021年3月まで、金沢21世紀美術館館長を務め、2021年4月より、現職。

高成麻 皐子

〔TBSテレビプロデューサー・ディレクター〕

富山県出身。お茶の水女子大学大学院(舞踊教育学)修了後、TBSテレビでドラマのプロデューサー・演出家として活動しながら身体表現を継続。主な作品:「Around40～注文の多いオンナたち」「表参道高校合唱部! (2015年)」など。2024年に東京藝大DOORにてケアとアートの接続を学んだことを機に、2025年舞台芸術プロジェクト「カタリーナ・デラルテ」を立ち上げ。現代社会に潜む小さなひずみを、映像・ダンス・芝居を融合した独自の手法で観るものを飽きさせないストーリーテリングで描くことにこだわる。

打田 由希子 〔J MAX THEATERとやま 支配人〕
福田 敬嗣 〔ラックプロ株式会社 代表取締役プロデューサー・富山県映像関連事業社協会会長〕
西島 治樹 〔富山大学学術研究部 芸術文化学系 教授〕

中島 春香 〔富山市学芸員〕
櫻井 美佳 〔富山市学芸員〕
中田 幸宏 〔富山市まちづくり推進課長〕

Concept 伊東 順二〔富山映像大賞総合プロデューサー〕

プロフェッショナルコース

やさしい世界 —
量子の恋

AI化社会が進展するにつれて社会はさらに機能化し表現の可能性やコミュニケーション手段も多様にかつ迅速に拡散ができる時代が到来している。しかしデジタルツインとも呼ばれるこの状況はまだ人間がアナログで作りに上げた感性によるネットワークを移植するところまで行っていない。言わば原始時代に感性のみで表現された洞窟壁画とは逆に人間は数学的に処理された情報のみで構築された表現のデジタルシェア空間に入り込もうとしているのである。だからこそいま表現者たちはグラデーションに彩られたデジタル処理の及ばない愛ある表現を駆使し弱者を切り取るこの杓子定規な時代を乗り越えようではないか。やさしい人肌の未来をつくる、技術の未来をやさしく包む才能を求めています。

市民向けコース

希望

富山市のコンパクトシティ化も進み中心部の景観や交通網も一新され、新しく活気に満ちたスマートな都市の姿が実現しつつある。今求められるのはそこで日々紡がれる市民の活動が生み出す文化のエネルギーである。それは新しく見たこともないものの創造かもしれない長い間継承されてきたものかもしれない、そしてまたその全てを優しく抱く母なる富山の大地かもしれない。その希望に満ちたドキュメントを自らの手で写していただきたい。



中島 信也

〔CM演出家/クリエイティブ・ディレクター/株式会社東北新社クリエイティブアドバイザー〕

1959年福岡県生まれ大阪育ちの江戸っ子。武蔵美視デ卒。日清食品「hungry?」(カンヌグランプリ)、サントリー「伊右衛門」、IndeedPLUS「タモリと宮沢りえさん」、民放連「違法だよ。あげるくん」、マクドナルド「月見バーガー」2026シリーズなどを演出。映画「ウルトラマンゼアス」(’96)「矢島美容室」(’10)監督。



西村 まさ彦

〔俳優〕

富山県出身。デビュー以来、映画・テレビドラマ・舞台など多くの作品で存在感を発揮し、キャリアを通じて数々の受賞歴を持つ。地元・富山では私塾WVA.および演劇集団「富山舞台」を主宰。全国各地で市民参加型の演劇ワークショップをプロデュースし、演劇初心者が稽古を重ね、最終日にホールの舞台上で上演を行う企画を展開している。富山では「ヴィンテージシアター」として開催。また2016年からは富山県内の中学生を公募し、中学生とともにラジオドラマ制作を行うなど、演劇文化の普及と地域振興にも力を注いでいる。



本木 克英

〔映画監督/日本映画監督協会理事長〕

富山市出身。松竹の助監督、プロデューサーを経て数多くの娯楽映画を監督。主な作品は「釣りバカ日誌」シリーズ、「鴨川ホルモー」、「超高速!参勤交代」、「空飛ぶタイヤ」など。ブルーリボン賞作品賞や日本アカデミー賞優秀監督賞など受賞多数。2022年より日本映画監督協会理事長を務める。最新作「負けへんで」が公開予定。

贈賞
内容

◎ プロフェッショナルコース

グランプリ	1	100万円、ガラストロフィー
特別審査員賞	1	50万円、ガラストロフィー
銀座ダイヤモンドシライシ賞	1	ダイヤモンドネックレス
正栄産業賞	2	ACTUS商品券
優秀賞	3	1万円、ガラス作品

◎ 市民向けコース

最優秀賞	1	5万円、ガラストロフィー
NiX JAPAN賞 アトム賞	各2	富の環宿泊券
J MAX THEATERとやま賞	3	映画観賞券

一次審査員

特別審査員



藤井 裕久

〔富山市長〕

1962年4月5日生まれ。工学院大学工学部卒。2011年4月、富山県議会議員に初当選。2021年4月に新富山市長に初当選。「コンパクトなまちづくり」を、今後さらに深化させるため、デジタル技術の導入やビッグデータの利活用により、全地域において日常生活の利便性を向上させる「富山市版スマートシティ」の実現に向け、市民重視、現場重視、スピード重視の基本姿勢で各種施策の実施に全力で取り組む。好きな言葉は、「一隅を照らす」。稲の成長や四季の移ろいを感じながら、愛犬と自宅近くの農道を散歩することが一番のリラックスタイム。